

◆一関出張所管内を流れる東北地方で一番大きい北上川は、平泉文化が栄えた背景に深く関わっていたことをシリーズ化してご紹介しています。
北上川と共に生きた平泉文化 第4弾
 ー栄華をきわめた奥州藤原氏ー

毛越寺造営による街づくり 二代・基衡の時代 1128年~1157年

裕福な基衡の時代

平泉の黄金文化は、豊富に産出する砂金で支えられていました。基衡の時代は特に砂金が多くとれたため、最も裕福な時代とされています。

仏教を中心とした街づくり



基衡は清衡の思いを受け継ぎ、仏教を中心とした街づくりを発展させていきます。幅30mにも及ぶ毛越寺前の大路の建設や、方形に整えられた地割など、「都市・平泉」の基礎をつくりました。

基衡が最も力を注いだのが、毛越寺の建立です。後に「吾朝無双（我が国に並ぶものがない）」といわれるほど立派なお寺でした。

基衡は、毛越寺の本尊である薬師如来像の制作を京都の仏師に依頼し、その謝礼として砂金や馬、絹など大量の品物を贈っていました。完成までの3年間、その輸送は絶えることがなかったといえます。

毛越寺庭園



毛越寺庭園（大衆が池）



曲水の宴
 庭園の遣水に盃を浮かべ、流れに合わせて和歌を詠む、平安時代の優雅な歌遊び。
 毎年5月第4日曜日に開催。（今年は中止）

毛越寺庭園は、自然美を取り入れた、平安浄土庭園の典型です。基衡は、池全体を大海に見せて、自然曲線の和風の庭園をつくりました。

隣接する観自在王院



観自在王院（春）



観自在王院（秋）

観自在王院は、基衡の妻が建立しました。当初は邸宅であったと伝えられており、毛越寺と共に平泉の表玄関を飾っていました。基衡が亡くなってから、寺院に造り替えられたと考えられています。舞鶴が池と呼ばれる池の北側には、大小2棟の阿弥陀堂がありました。

※北上川学習交流館 あいぽーと展示資料より

※バックナンバーはこちら http://www.thr.mlit.go.jp/iwate/syuttvouivo/itinoseki/2020/2020_ichinoseki.htm
 第1弾 NO.467 第2弾 NO.468 第3弾 NO.470